報告

関東支部会の報告

一地域とともにあゆむ天文教育・普及 Part3~平井 明(自然科学研究機構国立天文台・関東支部委員)

1. はじめに

2010年12月5日(日)に葛飾区郷土と天 文の博物館をお借りして、関東支部会を開催 しました。



図1 葛飾区郷土と天文の博物館外観

テーマとしては、本年の総会のテーマとなっていました「地域とともにあゆむ天文教育・普及 Part3」としました。

2. テーマに関する発表・一般発表

最初に、葛飾区郷土と天文の博物館の天文 ボランティアの活動内容や実態を学芸員の新 井達之さんと天文ボランティア運営委員の竹 内健一さんに発表していただきました。



図 2 天文ボランティア活動の発表をする竹内健一さん(写真:伊藤哲也さん)

その後、観望会見学では、実際に活動されているボランティアの方々と接することができました。ボランティアの中には、意外と天文ファンは少数で、様々なバックボーンを持たれている方がいらっしゃるということです。また、独自に作られたテキストを用いたり、模擬観望会を実施したりと、ボランティア研修が充実していることがわかりました。毎年入れ替わりはあるようですが、最近は世界天文年や「はやぶさ」人気のお陰かどうか不明ですが、ボランティアの数は増えているということでした。

一般発表では、初めて発表される方や、幅 広い分野からの発表となりました。

3. 一般講演

最後に、国立天文台はやぶさ観測隊として 参加された大川拓也さんに、「2010年「はや ぶさ」最後の輝きを振りかえる」と題して講 演をしていただきました。最近の「はやぶさ」 人気も相まって、一般の参加者で会場は満員 御礼状態でした。大川さんは、途中にクイズ なども交えながら、なぜ「はやぶさ」の観測 をすることに意義があるのか、オーストラリ アの砂漠や鉱物のことや、実は帰国してから、 「奇跡のツーショット」と呼ばれる撮影がさ れていたことが解ったなど、観測隊の様子を 画像や動画で、詳しく丁寧に説明してくださ いました。参加者の方々は熱心に耳を傾けて いました。講演終了後も、参加していた子ど も達や、大人の方からの質問が相次ぎ、まだ まだ「はやぶさ」に興味及び関心が高いこと が、実感できました。



図3 一般講演の様子

4. プログラム

4.1 テーマに関する発表

(1)「葛飾区郷土と天文の博物館の天文ボランティア」

新井達之(葛飾区郷土と天文の博物館)・竹 内健一(天文ボランティア運営委員)

(2)「知の構造化と天文学」 高梨直紘(東京大学)

(3)「夜空の明るさを通して考える環境と地域振興」

檜木梨花子 (茨城大学)

4.2 観望会見学、プラネタリウム見学

4.3 テーマに関する発表・一般発表

(1)「見て、触れて広がる星の世界へ 星の語 り部の活動から」

梶原まるめ、高橋真理子、跡部浩一(山梨 県立科学館「星の語り部」)

(2)「『宙のまにまに』を天文普及現場で活用しよう」

友田哲(日本天文愛好者連絡会)

- (3)「宇宙連詩に関する発表」 田淵光彦(有人宇宙環境利用ミッション本 部宇宙環境利用センター)
- (4)「宇宙のかたすみで今をつむぐ」 印南明美(佐倉市立井野中学校)
- (5)「病院での天文教室」
 - 一星昌利 (五藤光学研究所)
- (6)「院内カンセイ(観星)~病院での天文普

及~」「天文学は明治時代にはじまった」 佐藤明達

(7)「子ども天体観察教室から始まった地域連携活動」

木村かおる、石井雅幸(科学技術館サイエンス友の会)

(8)「Arduino を用いた星座読み上げシステム」

田口寬樹(新潟大学工学部福祉人間工学科 渡辺研究室)

4.4 一般公開講演

「2010年「はやぶさ」最後の輝きを振りかえる」

大川拓也 (東京工業大学)、国立天文台はや ぶさ観測隊

5. おわりに

一般講演会には沢山の方が来場されました。 こういったことがきっかけとなって、さらに 宇宙や天文に興味を持っていただけるように、 そしてせっかく持った興味を無駄にさせない ように天文教育普及研究会としても頑張って いかなければならないと強く感じました。

なお、参加者は、支部会 37 名、一般講演 会 80 名でした。

最後に、葛飾区郷土と天文の博物館の新井 さん、ボランティアの竹内さんを始め、博物 館の方々には大変お世話になりました。この 場をお借りしてお礼申し上げます。

平井 明